

鈴木日結 愛知淑徳高校

進学先：名古屋大学(法学部)

合格校：名古屋大学 早稲田大学 慶應義塾大学 明治大学 同志社大学 中央大学

入塾時期：高2 夏期講習から

①私は高2の夏期講習から入塾しました。その時からずっと志望校もあいまいでふらふらしていたのですが、私の話を丁寧に聞いてくださり、私に合った受験校のアドバイスや勉強の計画をたててくださった先生方には感謝しかありません。

②私が特に時間を割いた科目は日本史です。最初の頃は模試にビビっていたので、どうにかしていい点数を取ろうと暗記で何とかなるものは満点を取るつもりで勉強しました。模試の範囲に合わせて勉強するように計画を立て、学校の10分休みやご飯中などのちょっとした時間は日本史にあてていました。振り返ってみて、覚えることを全てひとつのところにまとめるのが良かったかなと思います。私は山川の教科書に全部書き込んで、模試の前はそれを確認するようにしていました。

③私は共テ本番で思うように点数が取れなかったのですが、それでもリサーチでA判定取れたのはずっと共テの対策をしてきたからだと思います。共テが終わり二次対策が始まった頃に、共テの対策は二次の対策にも直結していたのだとわかりました。私は早稲田の対策をほぼしていなく、赤本を数回解いただけでしたが、共テの勉強をとおして基礎を固める創先生の方針のおかげで合格することができました。

④少し私の模試の話をしませんが、4月に名大がB判定で、5月の記述模試からはA判定でした。まだ模試などをあまり受けていないみなさんにとってはA判定はゴールのように感じるかもしれません。私もそう思っていました。しかし、実際には全くそんなことはありません。何度A判定をとっても不安ばかりで、できないことばかり目につくようになり、本気で合格できないと思っていました。それに、ずっとA判定を取り続けなければというプレッシャーもあり、5月にとったあとの一学期がいちばん辛かったです。6月の頭にコロナにかかってしまって勉強できない日が続き、それで焦っていたこともあってその時期から11時間は勉強するようになりました。

⑤塾の小テストは毎回満点取れるように頑張りましょう！笑 英単や漢文の句形など、そのまま共テの点数に影響します。1度に全て覚えるのは大変ですが、小テストでは少しずつ覚えられるし、計画は創先生が立ててくださっているのだからそれに乗るだけです！私は英単の最後の方で少し手を抜いてしまって、取り返すのに苦労しました。

⑥アドバイスという程ではないですが、伝えたいことが2つあります。

まず、文系の方に向けたものですが、理科基礎は早いうちに覚えてしまうと後でとても楽だということ。私は春休み中に日本史と一緒に全部暗記しました。そうすると模試の前は流し読みするだけで良くなるので他の勉強に時間をかけることができ、学校のテストもノー勉でいけるようになりました。本番近くになると理科基礎に時間を使っていられないと思います。今何やればいいのか分からないと思う時は理科基礎をやってみてはどうでしょうか。

次に、全員へ向けて、入試の本番で諦めないことです。これは私が実際に身をもって感じたことです。私は本番やらかしの連続で、英語が全く読めなかったり大問1つやり忘れたり、得意にしていたはずの日本史が全くできなかったりと何度も心が折れそうになりました。ですが、他の科目でいつもより何点とれば大丈夫、とか、他のみんなもできてないはず、など、なんとか自分を励まして最後までやり切り合格することができました。本番でいつも通りの力をだすことはとても難しいと思います。受験をとおして、私はそこから諦めずに立ち直ることが合格につながるのだと強く感じました。みなさんも自信を持って受験に臨んでください。応援しています！！